

ツイてる！

(046)

ある男の人が、浜辺に横たわり、ぼんやりと空を見上げていました。そのとき、今まで自分は人生の道をどうやって歩いてきたかが、走馬灯のように浮かんできました。

そして、男の人が今までの道のりを振り返り見たとき、そこに二つの足跡があることに気がつきました。男の人はこう思いました。

「自分は、神さまと一緒に歩いてきたんだな」

ところが、道のところどころで、足跡がひとつになっていることに気がつきました。足跡がひとつになっているのは、自分が苦しんでいたとき、悲しい思いをしていたときでした。

男の人は、空を見上げて、こういいました。

「神さま、どうして私がつらいとき、悲しいときにお見捨てになつたのですか」

そのとき、空からこんな声が聞こえてきました。

「子よ、それは違う。オマエが苦しいとき、悲しいときに、私はオマエを背負って歩いていたんだよ。だから、足跡がひとつなんだ」

ツイてる！ 角川書店 斎藤一人